



中期経営計画2028

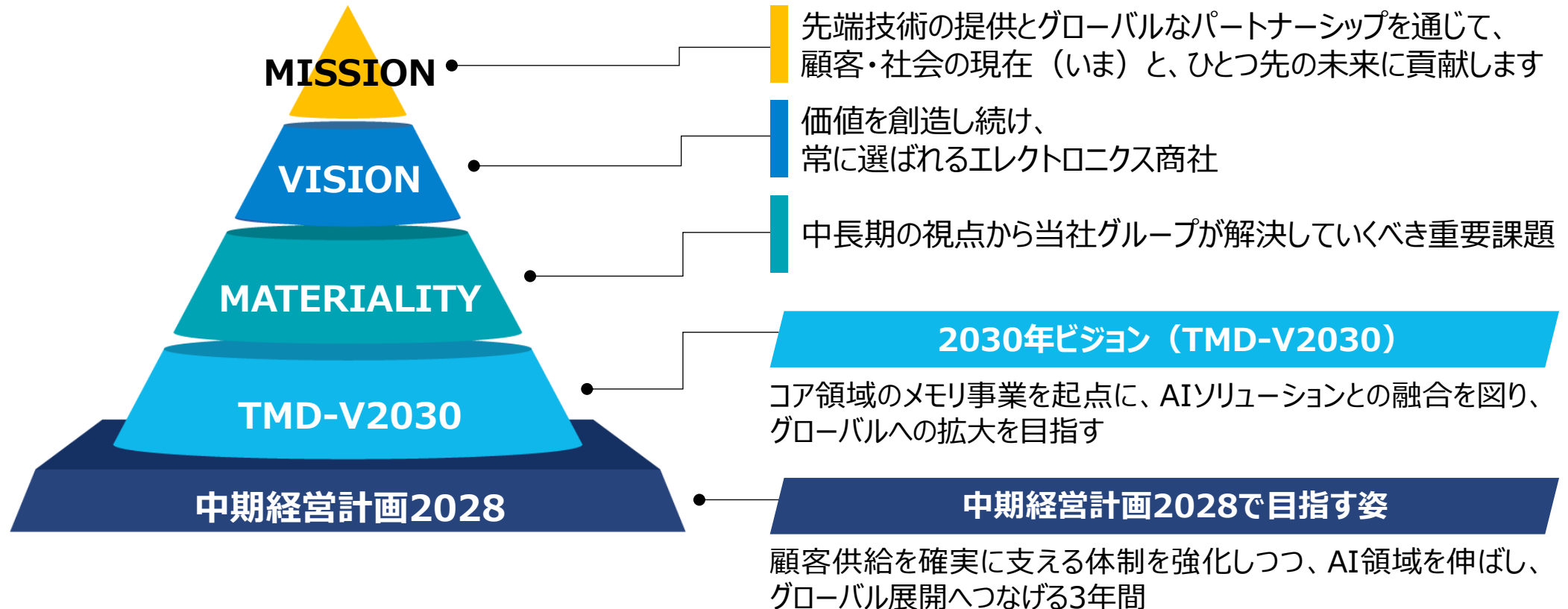
株式会社トーメンデバイス

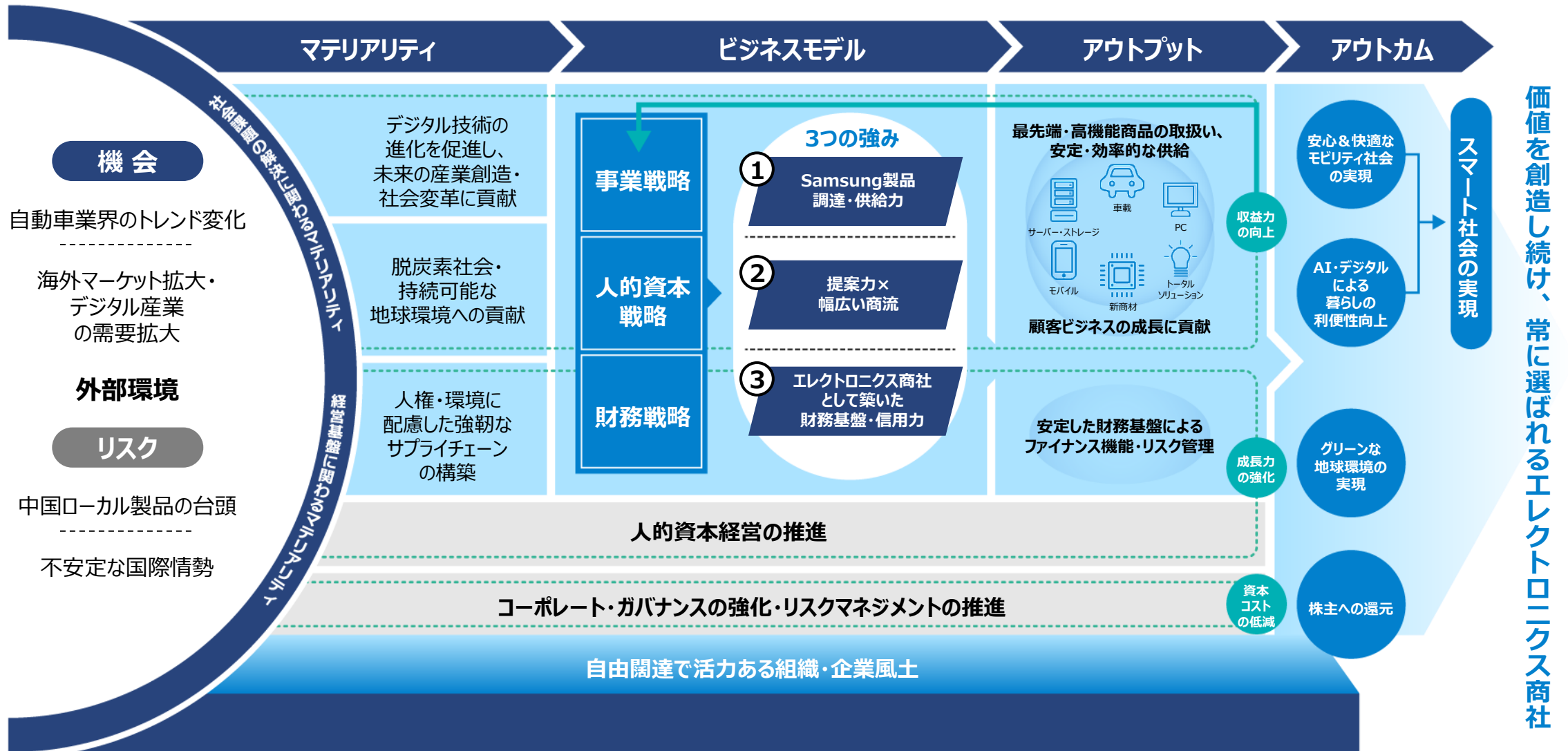
2026.4.24



中期経営計画2028の位置付け

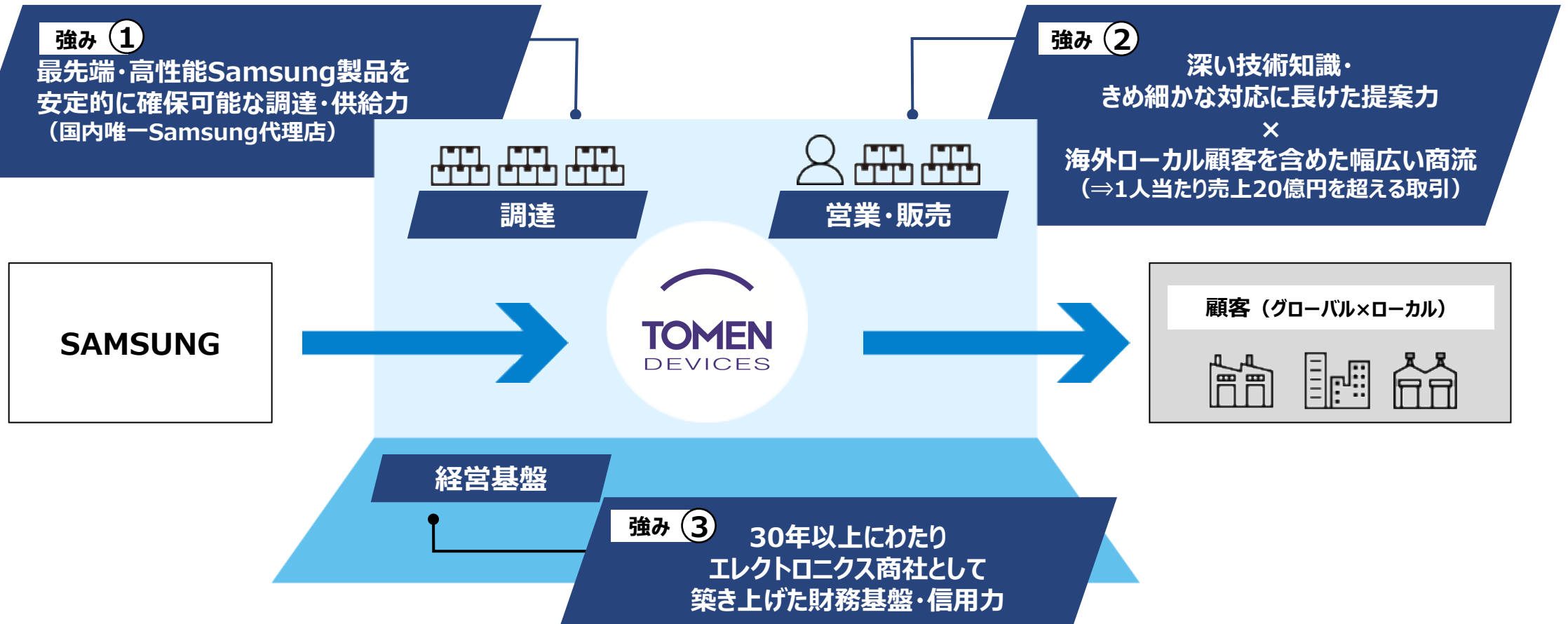
- Samsung代理店としての競争優位性を起点に、成長領域への挑戦と価値創造を加速する3年間とする。





当社グループのビジネスモデル

- 幅広い顧客層に対して、最先端・高性能Samsung製品を中心に安定的に供給することで収益を創出。

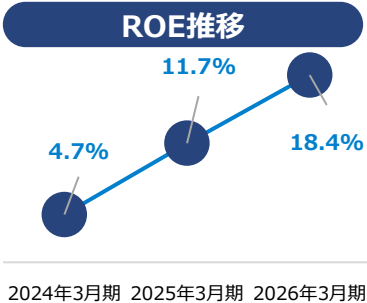
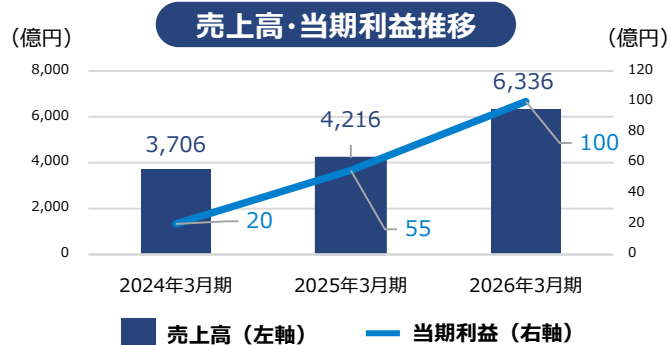


前中期経営計画の振り返り

- 生成AI関連製品の需要拡大によるメモリ価格の急騰が追い風となり、業績は順調に推移。
- 専門組織立ち上げによる販売活動の強化や技術サポート等の充実により、車載事業が成長し、成長性目標の売上高・当期利益、効率性目標のROEは全て達成。

財務目標・実績

	目標	2026年3月期 実績	評価
成長性	売上高 5,000億円	6,336億円	
	当期利益 安定的に60億円	100億円	
効率性	ROE 安定的に10%	18.4%	



事業別評価

注力事業	基盤事業	チャレンジ
サーバー・ストレージ、 車載、Foundry/ASIC	モバイル、PC、 TVその他家電他	新規商材と 事業機会の発掘
成果と課題	成果と課題	成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> • ストレージ向けウエハーBiz取引拡大 • 車載向け Samsung商材のクロスセル推進 (OLED、MLCC等) • 米国子会社設立 	<ul style="list-style-type: none"> • モバイル向けOLEDパネル供給開始 • 海外EMS向け商圏獲得による日系トランスファー取引拡大 • レガシー製品EOLに伴い、既存顧客のBiz縮小 	<ul style="list-style-type: none"> • 前中計期間における業績貢献は限定的 • Rebellions社、Mobilint社とのMOU締結による協業関係の構築

TMD-V2030に向けた中期経営計画2028

中期経営計画2028を通じて、コア領域のメモリ事業を起点に、AIソリューションとの融合を図り、グローバルへの拡大（TMD-V2030）を目指す。



当社グループを取り巻く環境

- 主力商材であるメモリは今後も需要拡大が見込まれるものの、不確実性の高い経営環境が続くため、次の3年間は、変化を捉え、柔軟に戦略を見直しながら企業価値を高めていくことが求められると認識。

■ 主な経営環境（当社グループへの影響が予想される主な要因）

Politics

- 米中のデカップリング進行による関連する国・地域市場への影響
- 日本政府主導の半導体産業への巨額投資

Economy

- 世界の半導体市場は、AI需要を追い風に今後も拡大傾向
- 中国製半導体の台頭

Society

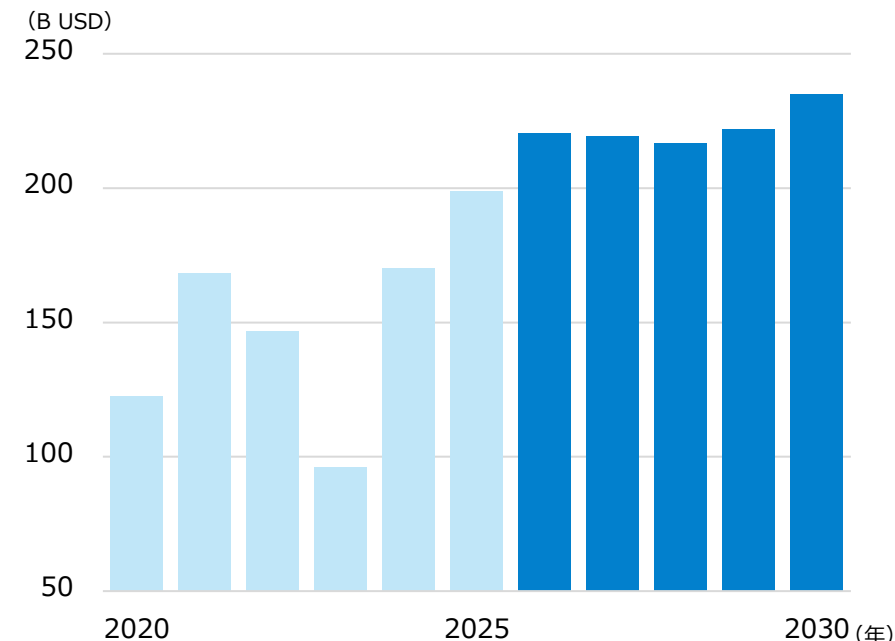
- 国内の労働人口減少により、働き方や働き手の多様化
- 脱炭素社会への移行

Technology

- 生成AIやロボティクスの進展による業務変革の加速
- エッジ、リアルタイムAI技術の進化

■ 半導体（メモリ）需要の見通し

当社グループの主力商材であるメモリは、今後も、比較的安定した需要拡大が見込まれる



Source : Semiconductor Technology Supply Chain Intelligence

中期経営計画2028で目指す姿

～顧客供給を確実に支える体制を強化しつつ、AI領域を伸ばし、
グローバル展開へつなげる3年間～

財務目標

成長性指標

当期利益
130億円

効率性指標

ROE安定的に
15%

株主還元目標

新たな目標を設定

配当性向
40%

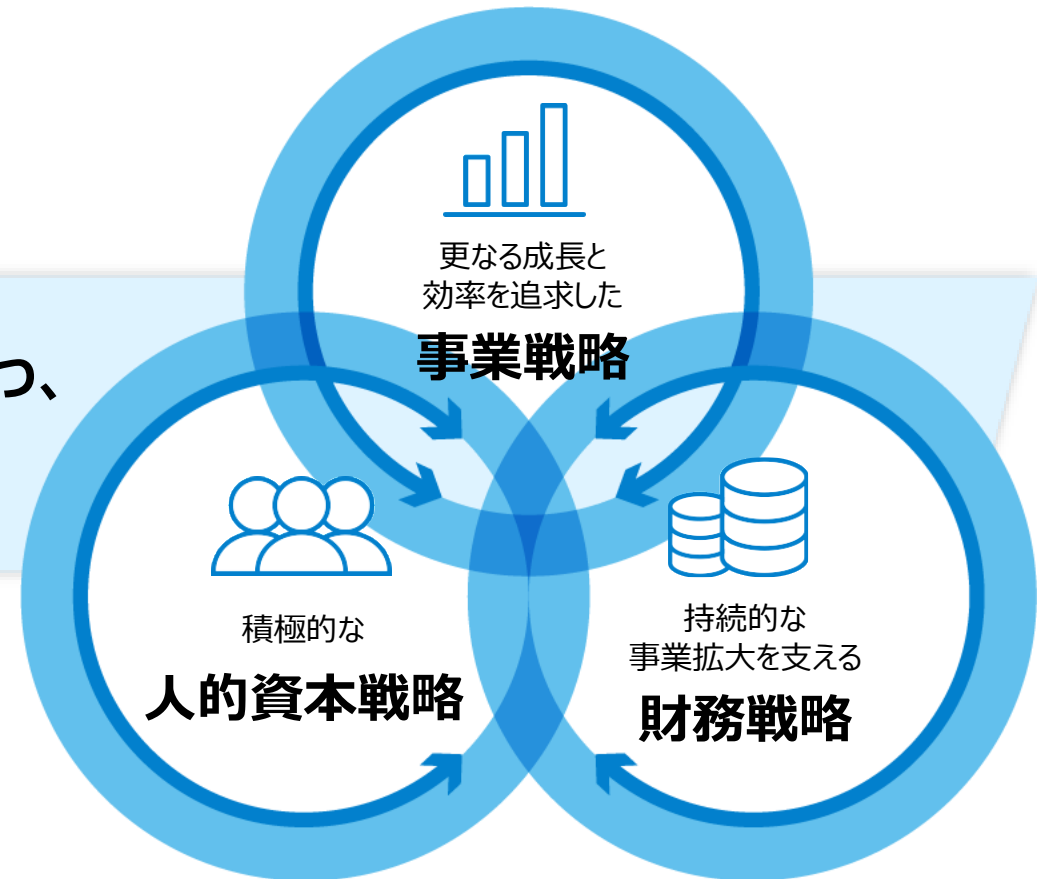
一株当たり300円を配当下限とし、
中計最終年度となる2029年3月期
の配当性向目標を40%に設定

中期経営計画2028を実現するための重点戦略

- 積極的な人的資本戦略と持続的な事業拡大を支える財務戦略により、更なる成長と効率を追求した事業を展開。

中期経営計画2028で目指す姿

～顧客供給を確実に支える体制を強化しつつ、
AI領域を伸ばし、
グローバル展開へつなげる3年間～



- 事業戦略を通じて、更なる成長と効率を追求。

アプリケーション別ポートフォリオ最適化



成長アプリケーション強化

- 市場成長性と収益性が高い車載、サーバー・ストレージを成長アプリケーションに位置付け、経営資源の積極的配分により、更なる規模の拡大を目指す

顧客ニーズに合わせた製品・サービス供給

- 顧客ニーズを踏まえ、最先端・高性能のSamsung製品の提案を強化するとともに、代替品対応を推進。アプリケーション別に最適な製品・サービスの提供を目指す

> P.10-13

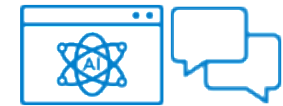
地域ポートフォリオの最適化による海外事業拡大



- 国・地域毎のマーケット特性を踏まえた、地域ポートフォリオの最適化を図る
- アジア地域への事業拡大と、車載ビジネスの伸長を狙う北米を中心に取組みを強化

> P.14

AIソリューション提案力の強化

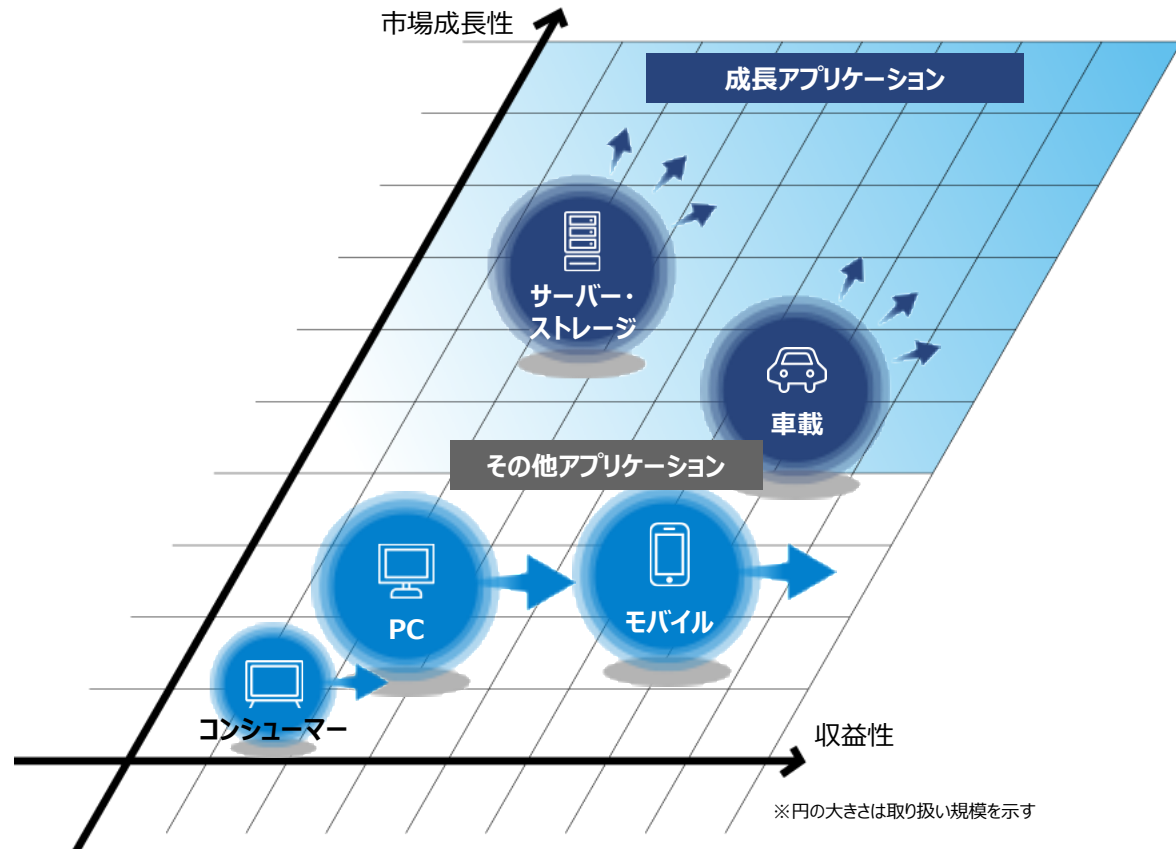


- AI市場が学習フェーズから推論フェーズに移行。当社は、推論に特化したAIソリューションを提案
- 大規模AI領域およびエッジAI領域向けソリューションの提案による新たな付加価値の提供を通じて、当分野での成長を目指す

> P.15

- 市場成長性と収益性が高い車載とサーバー・ストレージを成長アプリケーションに位置付け、経営資源の積極的配分により、規模の拡大を目指す。

アプリケーション別ポートフォリオ



成長アプリケーション



取組み方針

- アプリケーション領域別に組織再編し、専門人材による深い顧客理解と価値提案を通じて、長期的な顧客関係の構築を目指す
- グローバル需要の着実な取り込みを目指し、海外展開も積極的に推進

その他アプリケーション



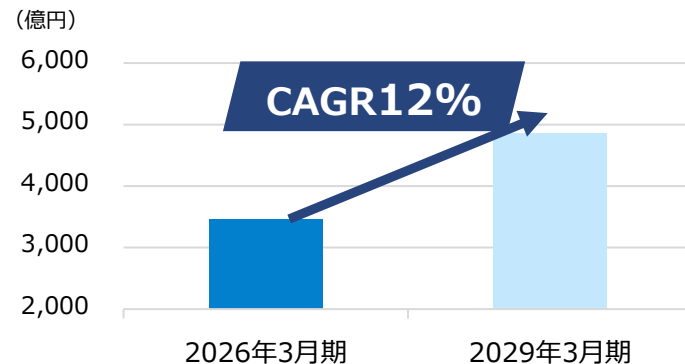
取組み方針

- AIの進展等に伴う顧客ニーズの変化を的確に捉え、高機能・高付加価値製品の取り扱い拡大を図る



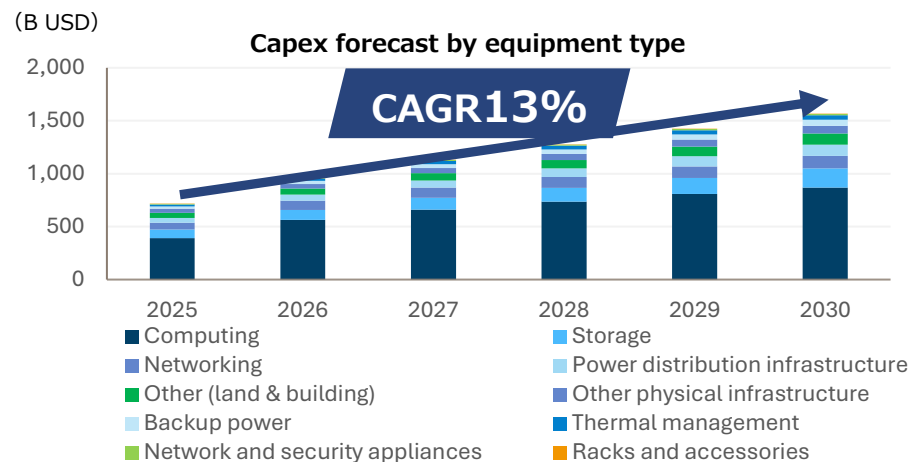
- AI時代の高速・大容量メモリ製品拡販による高速成長の実現。
- インドを中心としたグローバルサウス市場への販路拡大。

売上目標



データセンター関連製品の市場予測（出典：OMDIA）

サーバーを中心に、2030年までデータセンター関連製品のグローバル需要は、大きく伸長する見通し



戦略

戦略

- マーケティング機能および顧客対応力の強化
- グループ会社との連携×デジタルインフラ企業へのアプローチ
- グローバル展開する主要メモリモジュールメーカーおよびサーバー・ストレージメーカーとの戦略的パートナーシップ構築

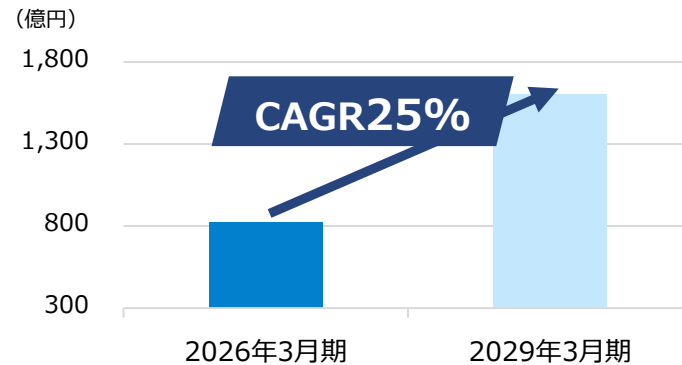
具体的な取組み事例

- サーバー・ストレージ領域に特化した専任組織の設立
- デジタルインフラ企業へのソリューション提案（メモリ+α）によるニーズ創出、案件化
- 顧客製品の取り扱いによる関係強化

成長アプリケーション強化（車載）

- AD（自動運転）/ADAS（先進運転支援システム）の高度化に伴う最先端半導体の搭載率が継続的に増加。
- 最先端メモリの積極的な推進、グローバル展開の加速、商材の拡大を図る。

売上目標



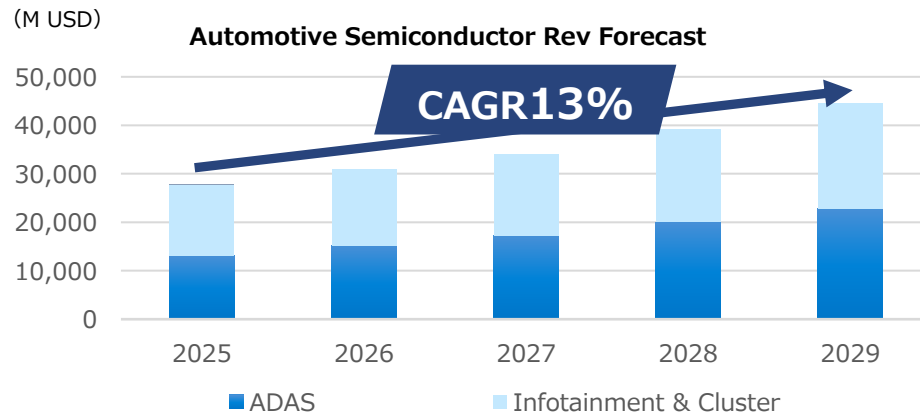
戦略

戦略

- 次世代モビリティへの採用を見据えたCar-OEMとのダイレクトコミュニケーション強化
- グローバル展開による販路拡大
- BCP対応を含む安定供給に向けたサプライチェーン最適化

車載関連市場予測（出典：OMDIA）

2029年まで車載関連製品のグローバル需要は、大きく伸長する見通し



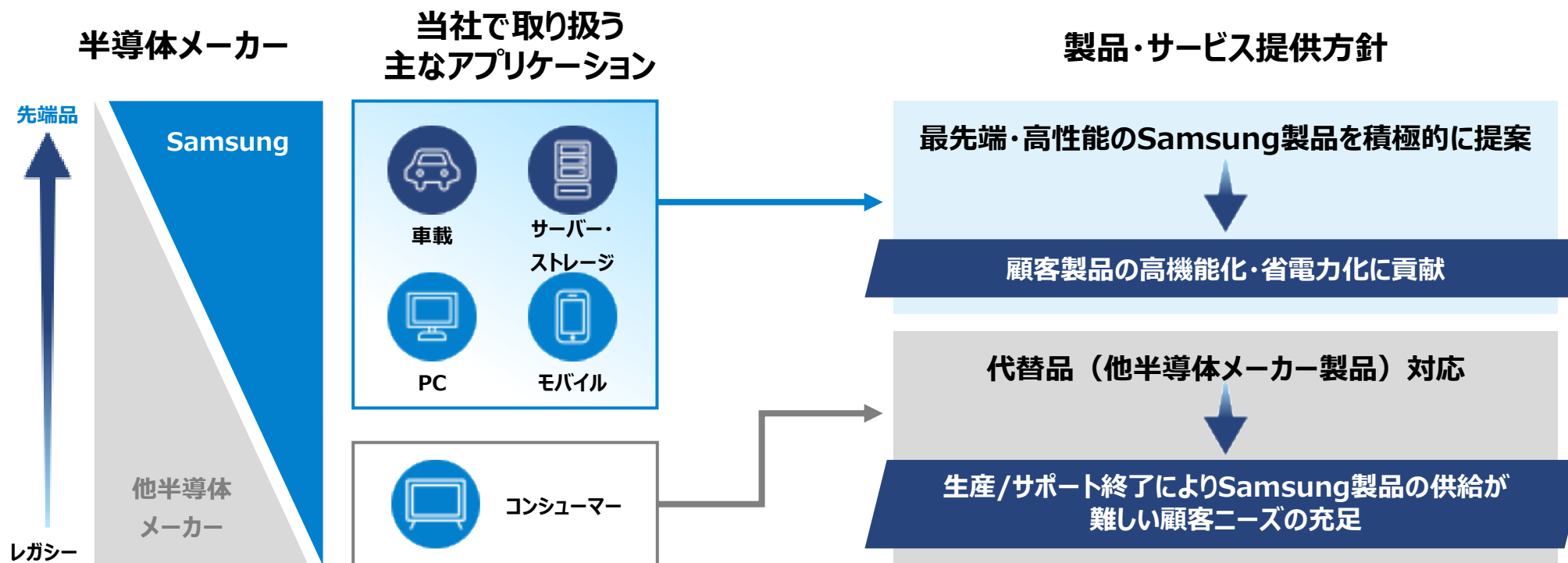
具体的な取り組み事例

- Samsungグループ商材を活用したクロスセリング提案、（メモリ・OLED・MLCC・CIS・電池組合せ）付加価値創出
- 現地拠点を軸（拠点×顧客密着型Biz）としたグローバル対応体制の強化（北米拠点開設等）
- 製品ライフ、プロセスを踏まえた複写化・最適製品提案と需給変動に応じたサプライチェーン可視化によるリスクの早期把握



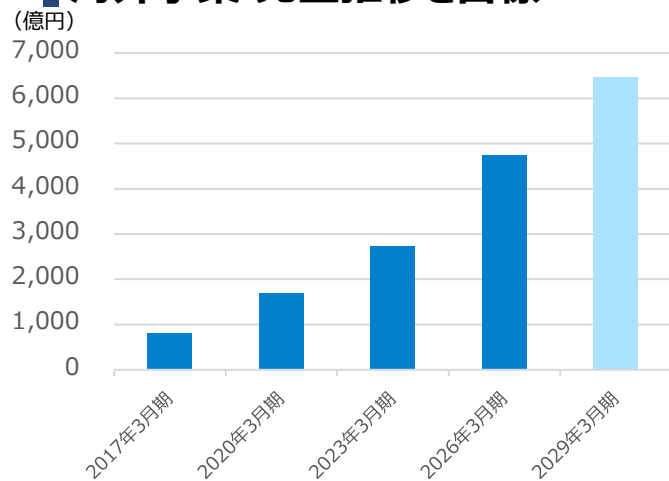
- 顧客のニーズを踏まえ、アプリケーション別に最適な製品の提案を目指す。

製品・サービス供給方針



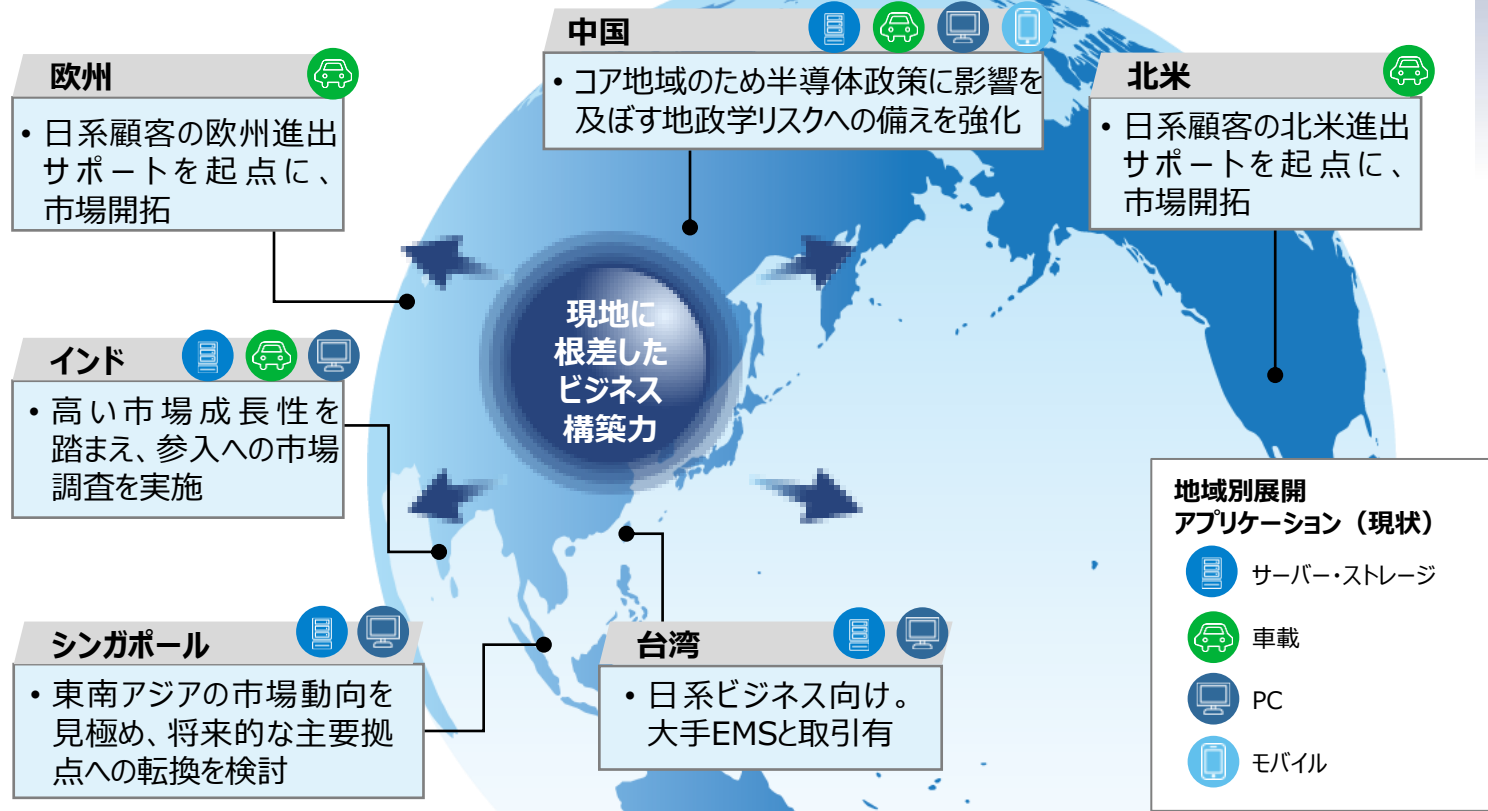
- ・国・地域毎のマーケット特性を踏まえた地域ポートフォリオの最適化を図る。
- ・当社グループの「現地に根差したビジネス構築力」を活かして、アジア地域への事業拡大と、車載ビジネスの伸長を狙う北米を中心に取組みを強化。

海外事業 売上推移と目標



- ・2012年中国現法（ATMD）設立、現地顧客基盤を構築し、中国市場を中心に海外事業を拡大
- ・今中計では、地域ポートフォリオの最適化を通じて、ATMDを起点としたアジアへの更なる事業拡大と北米での車載ビジネスの拡大を目指す

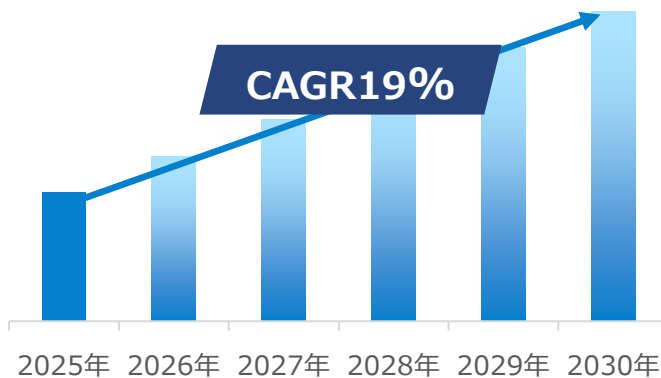
地域ポートフォリオの最適化



AIソリューション提案力の強化

- ・メモリ事業の顧客基盤を起点に、ソフト／ハードパートナーとの連携を通じてAI（推論）市場へ展開。

AI市場規模予測



(出典) SBクリエイティブ株式会社「ビジネス+IT」掲載記事 (<https://www.sbit.jp/article/cont1/178683>) を基に当社作成

大規模AI



データセンター（DC）側で、大規模AIモデルを活用した高度な推論を実行

<特徴>

- ・ モデル規模が大きい（LLM*）
- ・ データ量が大きい
- ・ 計算資源が大規模

(*)Large Language Model

エッジAI



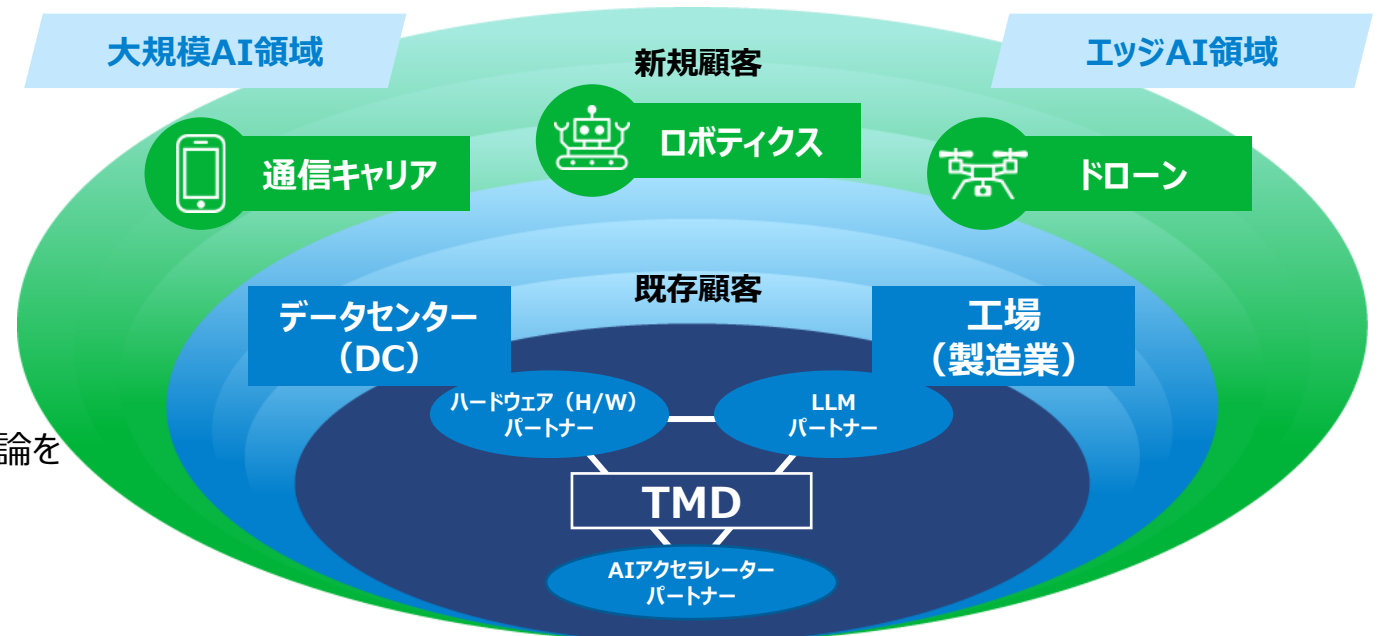
クラウドではなく、端末（エッジ）側でAI推論を実行

<ユースケース>

- ・ 工場（製造業）
- ・ 監視カメラ
- ・ IoTデバイス

AIソリューション領域の新たな取り組み

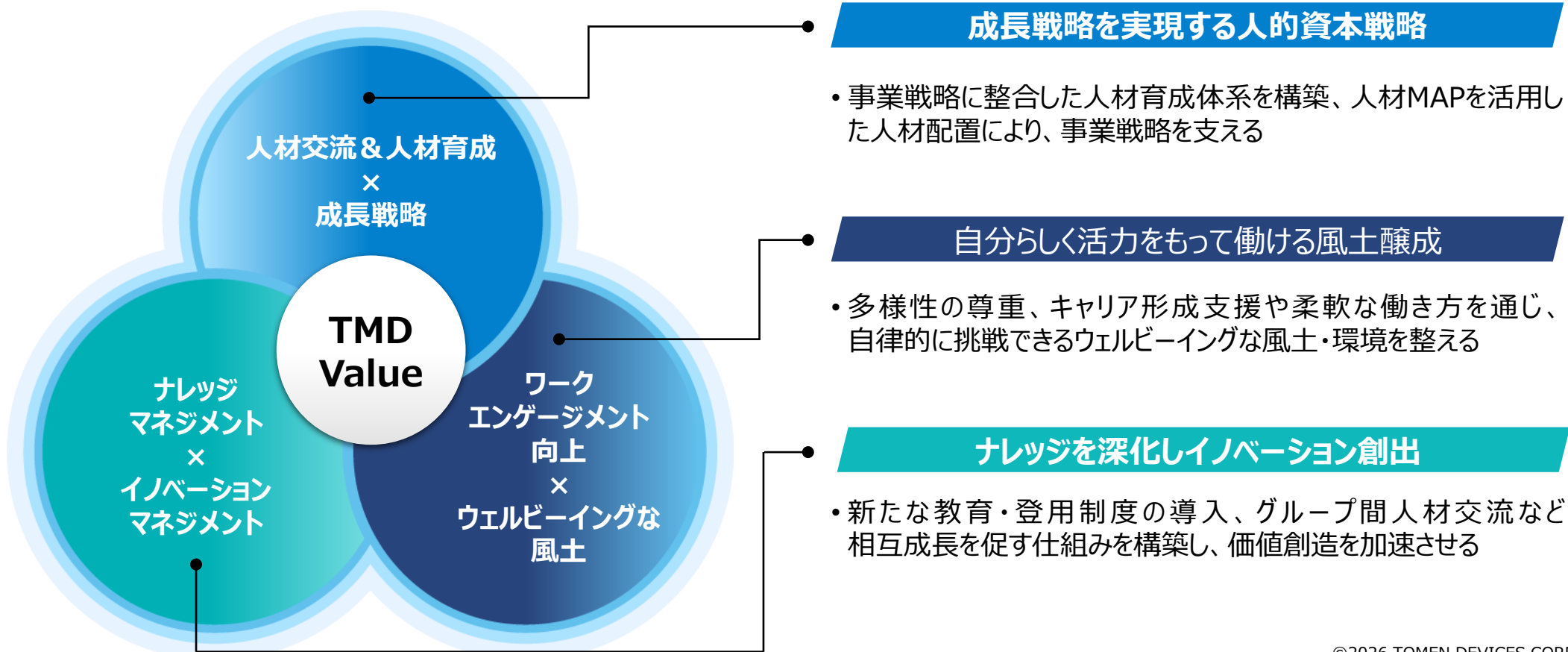
- ・ 推論向けAIアクセラレーターを核に当社が中心となり、**大規模AI領域でRebellions社、エッジAI領域でMobilint社**と連携し、既存顧客の深耕と新規顧客の開拓を両立したAIソリューション展開をおこなう





- 多様な人材への成長投資を通じ、知見や活力を結集し、持続的な企業価値の向上とイノベーションを創出。TMD Value（行動指針）を発揮し、3領域の実現を目指す。

3領域を複合的に推進

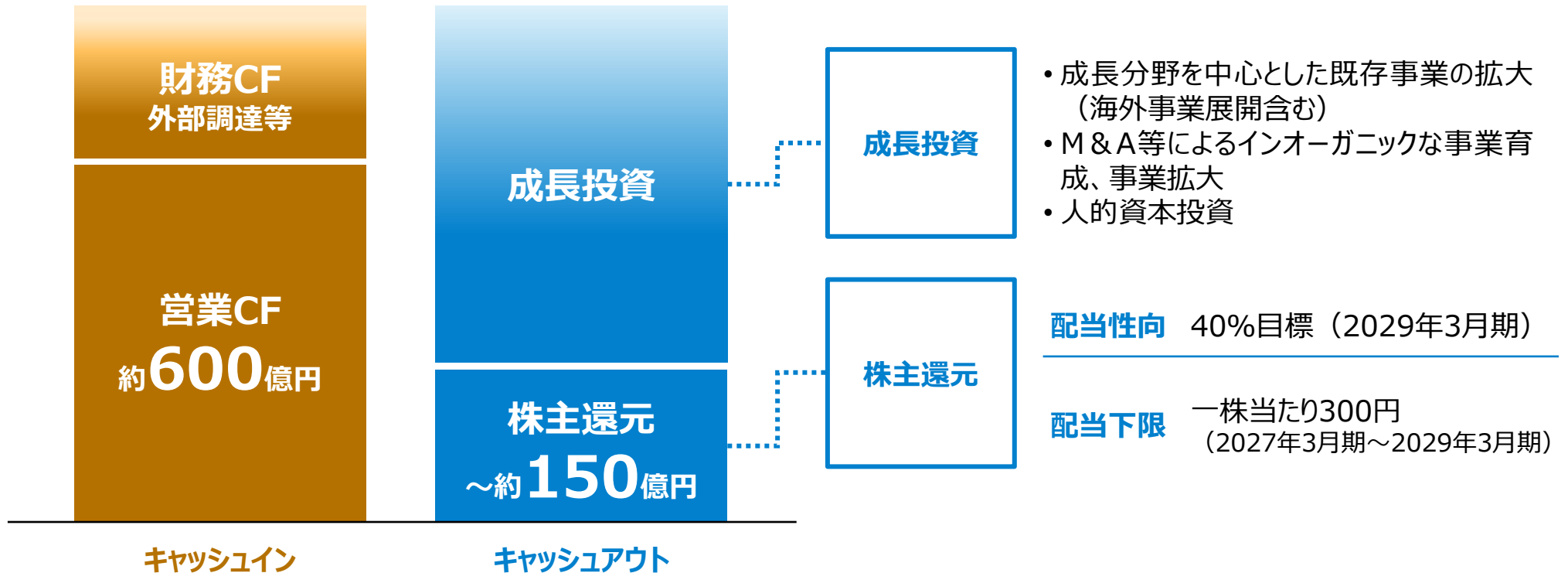


財務戦略（キャッシュアロケーション）



- 事業活動を通じて創出したキャッシュは、財務健全性を維持しつつ、成長投資と株主還元積極的に配分。更なる成長と企業価値の向上の好循環を目指す。

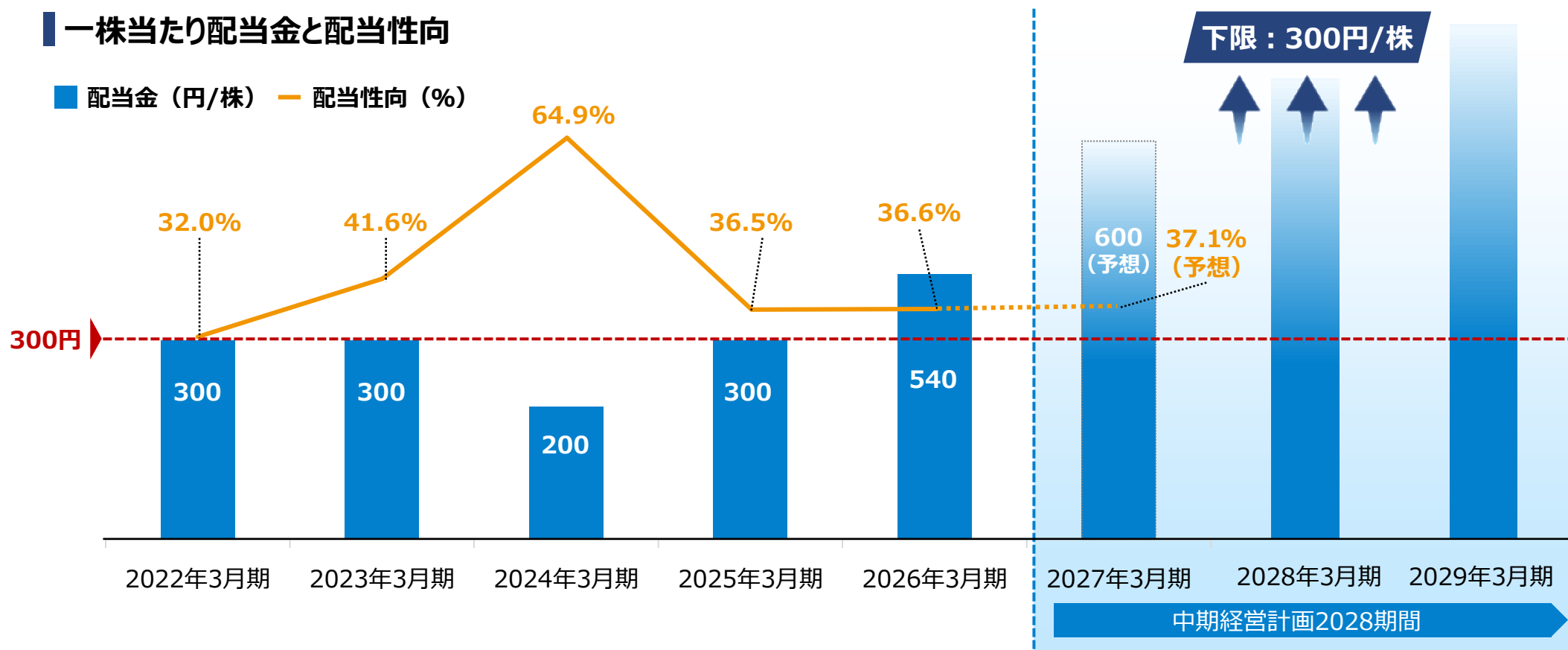
■ キャッシュアロケーション（2027年3月期～2029年3月期累計）





- 各事業年度の連結業績に応じた利益還元を行うため、業績連動型の配当とする。
- 株主の皆様への還元を強化する観点から、中期経営計画2028期間において一株当たり300円を配当下限とし、最終年度（2029年3月期）に「配当性向40%」を目指す。

一株当たり配当金と配当性向





(将来に関する記述等についてのご注意)

- 本資料で開示されているデータや将来予測、計画等は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、事業等のリスクや不確実の要因によって、大きく変化する可能性があります。これらの目標や予測の達成、及び将来の業績を保証するものではありません。
- また、本資料は、投資勧誘等を目的として作成したのではなく、本資料利用の結果生じたいかなる損害についても当社は一切責任を負いません。
- 投資に関する決定は、利用者ご自身の判断に基づいて行っていただきますようお願い申し上げます。